

【平成 26 年度・前期学期・ミクロ経済学 I・課題 1】

☆平成 26 年 5 月 26 日講義開始時提出。(提出には表紙のページを利用してください。【問 1】【問 3】は課題の後に解答用紙をつけてあります。【問 2】表紙のページを使い解答してください。)

【問 1】 ある農家がアスパラガスの収穫にアルバイトを雇うことにしている。アルバイトを雇ったときの収穫についての予定を次の表のようにあらわすことにするとき、後の設問に答えなさい。

人数	総収穫量 (束数)	平均 収穫量	限界 収穫量	総費用 (※) (現物支給)	平均 (※) 費用	限界 (※) 費用	それぞれの人を雇い 手元に残る アスパラガスの束数
0	0	-	-	-	-	-	
1	800	800	800				
			700				
3	2000						
4			280				
5	2510		230				
6			200				

- (1) 上の表を完成させなさい。ただし、この農家は当初一人当たり 500 束のアスパラガスを現物支給で支給することになっている。(提出にはこの課題の 2 ページ目をりようしてください。)
- (2) 限界法則とはどのような法則か説明しなさい。
- (3) 限界法則にしたがって何人アルバイトを雇うかを示しなさい。またこの時、総数で農家に何束のアスパラガスが手元に残っているか？
- (4) 平均と限界の関係とはどのようなものか、説明しなさい。上の例を使って説明してもよい。

【問 2】 次の文章が正しい文章か、誤った文章かを判断し、誤った文章の場合には例などをあげて 4 行程度で説明しなさい。

- (1) 実証経済学では、政府は公共事業に予算を増やし、経済を下支えするべきであるというような、論議をする。
- (2) 経済学の分析では、複数の変数が同時に変化した場合の経済的な帰結（結果）を一度に分析する。
- (3) 経済学では、現実の経済をできるだけ正確に描写することが大切である。
- (4) 経済学で扱う経済主体は、無償で何かを手に入れる場合がある。
- (5) 限界法則では、決まった比率で二つの財を交換できるとしている。
- (6) 基本的な経済学の学習では、財の名目値が経済的な決定を行う際に考慮される。

【問 3】 生産可能曲線上の生産される 2 財の生産量の組合せが、以下の表で表される時、

- (1) トレードオフと機会費用について説明しなさい。
- (2) 収穫逨減について説明しなさい。
- (3) 表から、X を 1 つずつ増やしたときの限界生産高を求めなさい。
- (4) (3)を用いて、この生産可能曲線が収穫逨減の法則を示しているかどうか判定し、その理由を述べなさい。

X 財の生産量	Y 財の生産量	Y の限界 生産高
0	15	
1	14.5	
2	13	
3	10.5	
4	7	
5	2.5	
6	-3	

提出用の表

学籍番号_____ 氏名_____

【問 1】

人数	総収穫量 (束数)	平均 収穫量	限界 収穫量	総費用 (※) (現物支給)	平均 (※) 費用	限界 (※) 費用	それぞれの人を雇い 手元に残る アスパラガスの束数
0	0	-	-	-	-	-	
1	800	800	800				
			700				
3	2000						
4			280				
5	2510		230				
6			200				

提出用の表

学籍番号_____ 氏名_____

【問 3】

X 財の生産量	Y 財の生産量	Y の限界 生産高
0	15	
1	14.5	
2	13	
3	10.5	
4	7	
5	2.5	
6	-3	